新しく登録された農薬 (9.6.1~6.30)

掲載は、種類名、有効成分および含有量、商品名(登録年月日)、登録番号(製造業者又は輸入業者)、対象作物:対象病害虫:使用時期および回数など。ただし、除草剤については、適用雑草:使用方法を記載。(…日…回は収穫何日前,何回以内散布又は摘採何日前,何回以内散布の略)。(登録番号19658~19662までの5件,有効登録件数は5456件)

「殺虫剤」

BPMC 粒剤

BPMC 1.0%

ミミダス (9.6.24)

19658 (フマキラー)

芝:ミミズの糞塚形成防止:糞塚形成時2回

「殺菌剤」

ジメトモルフ・マンゼブ水和剤

ジメトモルフ 12.0%, マンゼブ 50.0%

フェスティバル M 水和剤 (9.6.24)

19661 (ローム・アンド・ハース)

ばれいしょ:疫病:14日3回, きゅうり:べと病:前日3日, 大粒種ぶどう(露地栽培):べと病:60日2回(開花後は1日), 小粒種ぶどう(露地栽培):べと病:60日2回, ぶどう(施設栽培):べと病:開花前2回

「除草剤」

イマズスルフロン・プロジアミン水和剤

イマズスルフロン 20.0%, プロジアミン水和剤 22.0%

イーグルランナーフロアブル (9.6.24)

19659 (武田薬品), 19660 (エス・ディー・エス)

日本芝:一年生雑草・多年生広葉雑草・ヒメクグ・ハマスゲ:芝生育期(雑草発生前~雑草生育初期)3回:雑草茎葉散布又は全面土壌散布

ジクワット液剤

ジクワット 30.0%

レグロックス (9.6.24)

19662 (ゼネカ)

ぶどう・おうとう・すもも・あんず・うめ・びわ・りんご・なし・かき・もも・かんきつ:果樹園下草一年生雑草:雑草生育期(但し収穫30日前まで)5回:雑草茎葉散布, ばれいしょ:畑地一年生雑草:雑草生育期(黄変期~枯凋期, 但し収穫7日前まで)2回:散布, 麦(多株穴播栽培):畑地一年生雑草:雑草生育期(播種5~10日前)1回:雑草茎葉散布, 桑:畑地一年生雑草:雑草生育期(春期発芽前又は夏切後)3回:雑草茎葉散布, 公園・庭園・提とう・駐車場・宅地・のり面等:一年生雑草:雑草生育期3回:雑草茎葉散布, ばれいしょ:茎葉枯凋:黄変期~枯凋期(但し収穫7日前まで)2回:散布

新病害虫情報

新病害虫情報

イチゴ茎腐細菌病 (仮称)

1996年11月5日に大分県杵築市のイチゴで、葉および葉柄部にえそ症状を示し、がくが褐変する病害が発生した。発病株のクラウンおよび果梗部は、髓が灰褐色~赤褐色に変色し、のちに腐敗消失して空洞化し、激しい場合は枯死した。しかし、導管部が侵されないため、急激な萎ちよう症状を示すことはなかった。各病斑部からは乳白色、円形、周縁鈍鋸歯状で扁平な同一形状コロニーの細菌のみが分離され、分離細菌をイチゴの各部位に接種すると、圃場と同様な症状が再現された。本病原細菌は周鞭毛を有する短桿菌で、細菌学的諸性質を検討した結果、*Erwinia chrysanthemi* であることが明らかとなった。*Erwinia* 属細菌によるイチゴの病害は国内外ともに未報告であるため、平成9年度日本植物病理学会大会において、「茎腐細菌病(新称)」として発表した。

新しい病害は、しばしば品種の変遷、栽培体系の変化の中で発生することがあり、さらに苗の移動により発生地域が拡大するおそれがある。現在のところ、本病害の発生は1圃場のみに限定され、他地域では確認されていないが、今後他地域でも発生が懸念される。なお、本病害はクラウン髓部の変色等から、炭そ病など他の病害と混同されている可能性もあるので、十分な観察が必要である。

本病害は新しく確認された病害であることから、病原菌の伝染環や発病要因など発生生態に不明な点が多く、防除法についても明らかではない。そのため、今後、他地域での発生生態を調査するとともに、伝搬経路および発生生態を解明し、防除法を確立する必要がある。

(大分県農業技術センター 吉松英明)